



明安小しめ飾りづくり 今年1年を幸せに過ごせるように

12月14日、明安小学校の伝統行事「しめ飾りづくり」が行われました。「しめ飾りは1年を幸せに過ごすために必要なもの」と説明を受けた子ども達は、より真剣な表情に。地域の皆さんと一緒に丁寧に製作していました。しめ飾りは明安地域の一人暮らしの高齢者の方々にもプレゼント。子ども達が一生懸命作ったしめ飾りは、きっと幸せを運んでくれることでしょう。

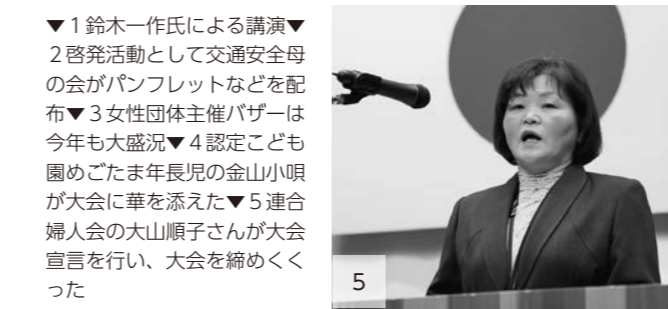


小児救急講習会 乳幼児の急病時の対応について学ぶ

12月6日、小児救急講習会が開かれ、県立新庄病院小児科の仁木医師が、乳幼児の急病時の対応についてお話されました。「3ヵ月未満の乳児の発熱や呼吸が苦しい場合など、緊急を要するケースは多くない」と、子どもの異変に慌てずに対応することの重要性を説いていました。本当に救急の症状なのかどうか、自身で判断できる知識が、親にとって必要なかもしれません。

オリジナル劇を立派に発表！ めぐたまお楽しみ会

12月9日、認定こども園めぐたまのお楽しみ会が、楽しく賑やかに開かれました。年長園児たちは、小さなお話を膨らませながら、みんなで話し合っ創り上げたオリジナル劇『怒ったほうき達』を発表。それぞれが自らの役を最後まで演じ切りました。会では園児たちの呼びかけでサンタさんも登場。思い出に残る新園舎では初めてのお楽しみ会となりました。



▼1 鈴木一作氏による講演▼
2 啓発活動として交通安全母の会がパンフレットなどを配布▼3 女性団体主催バザーは今年も大盛況▼4 認定こども園めぐたま年長児の金山小唄が大会に華を添えた▼5 連合婦人会の大山順子さんが大会宣言を行い、大会を締めくくった

本当に強い農業とは—— 金山町認定農業者会研修会

12月8日、金山町認定農業者会の研修会が開催され、共同通信社の石井勇人氏が、今後の農業の行方について講演されました。石井氏は自らが取材した国内外の様々な営農スタイルを紹介。その上で「これからの営農戦略は、規模拡大やブランド化が全てではない。どこも同じことをやってはダメ。本当に強い農業とは何かを自分で考え、知恵を絞ることが大切」と力説していました。



人権擁護委員みすぎ荘を訪問 ふれあいながら啓発活動

11月17日、新庄人権擁護委員協議会が特別養護老人ホームみすぎ荘を訪問されました。人権擁護委員の皆さんは、利用者の方々と交流を図りながら、人権擁護の啓発活動を実施。管内の各市町村それぞれが余興を披露する中、金山町からはさわやか大黒舞愛好会の4名が登場しました。元気いっぱいの大黒舞に、利用者の方々からは笑顔があふれ、手を叩きながら楽しんでいました。

家族や地域のあり方を考える 金山町「家庭の日」運動推進大会

12月3日、中央公民館を会場に、第41回金山町「家庭の日」運動推進大会が開催されました。町女性団体連絡協議会が主催する本大会。100名を超える来場者は、現代における家族のあり方について考えを深めました。

大会では、鈴木眼科院長の鈴木一作氏(寒河江市)が「心を育てる～親として伝えていきたいこと～」と題し講演。「心とは蔵のようなもの。知識や体験、感じたことなど、良質なものをどんどん取り込んでいくことが大切」と話され、子ども達との関わり方について示唆されました。そのほか、人権擁護委員による人権相談や伝統・家庭料理の展示試食会などが行われ、家庭や地域のつながりを考える良い機会となりました。

町イチ！村イチ！2017 金山の「食」や「産業」を全国にPR

12月2～3日、東京国際フォーラム(東京都千代田区)で開催された「町イチ！村イチ！2017」に当町が参加し、金山を全国にPRしました。町からは食や地場産業、移住などに関する4ブースを出展。リピーターが続出するほどの人気をみせた「あげそば」や行列が途絶えなかった「金山杉のマイはしづくり」など、どのブースも人気を博し、絶好のPRの機会となりました。

